

群馬県国際理解教育研究会だより

群馬県国際理解教育研究会 発行責任者 会長 富澤 厚

2018年(平成30年)



平成30年7月2日発行

「在外教育施設派遣セミナー&帰国教員実践発表会」

5月19日(土)に、群馬県生涯学習センターにて「在外教育施設派遣セミナーおよび帰国教員実践発表会」が行われました。今回は、3月に帰国された先生方の現地での教育実践報告や派遣を考えている方々へのセミナー、そしてパネルディスカッションなどがあり、充実した内容の発表会となりました。

はじめに・・・

最初に、群馬県教育委員会管理主事 櫻井 誠先生からお話をいただきました。群馬県の今後の国際理解教育において、帰国後の派遣教員の役割が大いに重要であるというお話があり、ますます国際理解教育研究会や派遣教員の教育現場での重要性を実感しました。今後もますます本研究会と行政との連携を期待したいと思います。



帰国教員による実践発表会

次に、メキシコ・アグアスカリエンテス日本人学校に派遣された安中市立東横野小学校の齋藤 新吉先生と、韓国・ソウル日本人学校に派遣された太田市立藪塚本町小学校の高澤典義先生による実践発表がありました。

日本とは異なる国の風土や文化などでご苦労をされたかと思いますが、むしろ日本との違いをその国の個性としてとらえ、尊重されている様子がうかがえました。また、それぞれの国で子ども達に日本の文化を伝えつつも、現地の風習や伝統行事なども授業に取り入れ、日本と派遣された国の架け橋となる子ども達の育成にご尽力されている姿が目につきました。



短い時間ではありましたが、派遣された国での教育実践、生活の様子などたくさんの貴重なお話をうかがうことができました。参加された先生方、大変ありがとうございました。



【アグアスカリエンテス日本人学校】齋藤新吉先生



【ソウル日本人学校】高澤典義先生

帰国教員によるパネルディスカッション



続いて、今年度および前年度帰国された6名の先生方によるパネルディスカッションが行われました。

会場からは、「小学校の社会科の授業をどのように進めていたか。」や「現地語をどのように習得したか。」など、日本人学校ならではの疑問や現地での生活事情に関する率直な質問が多数出されました。

どの先生方も、今までの経験をもとにして、限られた教材を工夫したり現地施設などを利用したりして、授業を進めていることがわかりました。また、その国でしかできないことなどを前向きに挑戦してみたり、現地の生活やコミュニティに積極的に関わっていったりすることで、派遣された国のよさを実感されている様子が伝わってきました。



出願から渡航まで



最後に、藤岡市立北中学校の小柴 瑛先生に「出願から渡航まで」の流れについて、説明していただきました。派遣を検討されている先生方にとって、選考試験の内容や渡航までの手続きなど、具体的にどのように進められていくのか気になるところかと思います。小柴先生ご本人の経験を踏まえた具体的なお話をいただき、派遣を検討されている先生方にとってたいへん貴重なお話となったことと思います。



帰国歓迎会～「うたや」にて～

セミナー終了後、「うたや 天川店」にて帰国歓迎会が開かれました。

群馬県内で活躍されている会員同士が情報交換をして、海外での共通の話題に共感したり、派遣地でのエピソードなどを語り合ったりして、お互いに親睦を深めることができました。

帰国された先生方、本当にお疲れ様でした。それぞれの学校で、先生方が海外で体験されたことをぜひ子ども達に伝えていただきたいと思います。また、先生方の活躍の場をこの群馬県国際理解教育研究会でも提供していきたいと思っています。



【今年度帰国された4名の先生方】
(左から高澤先生、小林先生、渡辺先生、渡部先生)